

## モンゴル国立図書館蔵の共戴十二年刊行の鉛版本

### 『チンギス・ハーンの二頭の駿馬』について

—2つのタイプの伝承の「共通部分」における  
差異の明確化に向けて—

Difference between the conventionally viewed  
“common story” of the two forms of *Činggis qayan’s Two Horses*,  
as determined from the 1922 version held  
by the National Library of Mongolia

藤井真湖  
Mako FUJII

#### Abstract

The many variants of the story known as *Činggis qayan’s Two Horses* are some of the most outstanding examples of Mongolian literature. They have been divided into two types of story. In the first type, Činggis qayan’s two horses escape from him but return after several years of living free from labor. The second type relates the same base story but also contains an additional part about a boy who was a prisoner and had a talent for appraising horses and who ran away from his master to make use of his talent but was finally captured and only his horse managed to flee to China. The base of each type of story has been treated as being “common”. However, this base should actually be seen as being different in the two types. While this difference in the base of the story between the two types has sometimes been mentioned, it has never been viewed as a serious difference. This paper clarifies the difference clearly through an examination of the 1922 version of *Činggis qayan’s Two Horses* created using stereotype plates and held by the National Library of Mongolia.

#### 1. はじめに

『チンギスイ・ハーンの二頭の駿馬』(以下、二頭物語)は多くの研究者を引き付けてやまない魅力あるモンゴル文学作品のひとつである。この物語にはモンゴル英雄叙事詩や民話などに散見される、あるいはそれに類似する口頭伝承の特徴が多くみられるものの、すくなくとも学界において知られるようになった時点においては、当該伝承は純然たる口頭伝承のかたちではなく、写本を見ながら語り手が歌う、というような半ば書承、半ば口頭伝承というかたちであった<sup>1)</sup>。叙事詩ではなく、当該物語に関連すると考えられている民謡もある。こちらのほうは

口頭伝承のかたちで広い範囲で流布している。これら民謡には写本伝承におけるようなストーリー性はみられないのが特徴である。

ストーリー性のある文字伝承の場合、写本研究が要されることは一目瞭然であり、近年、楊海英の二頭物語論文『『チンギス・ハーン』の二頭の駿馬』について』をはじめ<sup>2)</sup>、写本の紹介及び研究はしだいにすすみつつある<sup>3)</sup>。これらの写本は中国、モンゴル、ロシアに保管されており、とくに中国内蒙古自治区のオールドス地域は、この地域で記述されたと考えられる写本数の多さから言っても、当該伝承の一大中心地であったことをうかがわせている。ただし、モンゴル国においても写本は少ないながらも存在している<sup>4)</sup>。

当該伝承の成立年代は不明である。成立年代を確定する難しさは、ひとつには、当該写本においては史実と認定されている事件に特定できるような直接的な叙述は見られないところに存在している。その点では、モンゴルの他の物語性を持つ口頭伝承と同様である。もうひとつには、当該伝承には、従来の研究ですでに知られてきたことであるが、当該写本には2つのタイプがあるためである。そのひとつは、チンギス・ハーン』の二頭の駿馬がチンギスのもとから逃走し、再度もどってくるまでの物語だけをもつタイプと、さらに、馬の鑑定ができる少年が捕虜の身分から脱走して、再度とらえられ、少年の乗った馬だけは漢土に逃れたという新たな物語が付加されているタイプの2つである。発見された地域・集団名を指標に、前者を“ハルハ本”、後者を“オールドス本”と命名している研究者もいるが<sup>5)</sup>、じつは、両タイプに共通している物語には差異がある<sup>6)</sup>。この差異についての指摘は既になされてはいるが<sup>7)</sup>、その差異は、付加された物語をもつものとそうでないものとの間の差異ほどには認識されてこなかったといえる。ところで、本伝承の意図についてもこれまで多くの論考が重ねられてきたが<sup>8)</sup>、いまだその意図が明らかにされたとは言い難い状況である。

## 2. 本論の目的

本論は、前述のように、当該伝承の2つのタイプとして知られる伝承で「共通部分」とみなされてきた部分に差異があることを明確に指摘しようとするものである。この事実を明確にしておくことは、当該伝承の意図及び形成過程を論じるさいに不可欠と考えられるからである。ところで、楊海英が指摘するように、従来の研究は1958年に出版されたモンゴル国のダムディンスレンによって発表された *Mongyul uran jokiyal-un degeji jayun bilig orusibai* (『モンゴル文学珠玉百編』) に掲載された2つのタイプに基づいて論じられてきたといえる<sup>9)</sup>。だが、楊も指摘するように、ダムディンスレンの2つのテキストは、両者とも幾つかの写本を比較対照した上で作成した校勘本である。

具体的にいえば、ダムディンスレンの2つのテキストのうち第1テキスト—前述した“ハルハ本”とも名付けられている—は、テキスト末尾に付加された説明によると、1916年頃、モンゴル国の外務省から鉛版で印刷されたものに基づいて、他の写本 *bičimel* と合わせ直して出版したとある。ここで、鉛版印刷されたものがいかなる写本 *bičimel*—それがひとつなのか複数なの

かを含めて一と対校して作成したのかについては記載がなく不明である<sup>10)</sup>。第2 テキスト—多くの研究者が“オルドス本”として扱っているものでダムディンスレンは「オルドスから発見された手書き写本 *γar bičimel*」という説明をタイトルに付している—は、テキスト末尾の説明によると、二頭のジャガル物語をここに刊行するさいに、エルデニクトホがオルドス地域から入手して *Mongγul teüke kele bičig* (『モンゴルの歴史・言語』) という雑誌の1958年の第5号に刊行したテキストに主に基づいて、ジャムサリンのチェデン (ジャムツラーノ—筆者注) が同じくオルドスから入手してレニングラードの図書館に保管されているテキストと合わせて若干手直しして用意したものであるという<sup>11)</sup>。このように、多くの研究者が典拠に用いているダムディンスレンの2つのテキストは両者ともダムディンスレンの考える「理想的テキスト」ともいべきものといえる。研究の目的によっては、ダムディンスレンのテキストで充分であるかもしれないが、写本そのものが見られる状況になった現在においては、写本そのものに基づく研究が望ましいであろう。

本論の目的は2つある。そのひとつは、ダムディンスレンの第1テキストの主に基づいた共載12年刊行の鉛版印刷本を紹介し、ローマ字転写・日本語翻訳をおこなうことである<sup>12)</sup>。すでにこの鉛版印刷本の手書き写本のローマ字転写と日本語翻訳を前出の楊海英が出しているが、原本からの作業ではなく、ここで紹介しようとする鉛版印刷本を書き写した写本からの転写と翻訳であった<sup>13)</sup>。両者には若干の差異があるが、ここでは指摘していない。また、日本語の翻訳も楊海英のものとは若干異なっているが、これは筆者が意味を十分に汲み取れない箇所を訳出せず不明のまま残したためでもある。もうひとつの目的は、「はじめに」で言及したように、当該伝承には2つのタイプがあることが認識されてきたが、この両者に共通する物語における差異はあまり重要視されてこなかったことをかんがみ、この点を改めて強調することである。とくに、モンゴル国の共載十二年刊行の鉛版印刷本テキストには特徴的なフレーズが存在することをテキスト上で具体的に示すことにより、これがもうひとつのタイプとは決定的に異なる特徴であることを指摘したい。

### 3. テキスト

以下、モンゴル国の共載十二年刊行の鉛版印刷本におけるテウイグル式蒙古文字テキストのローマ字転写と日本語訳を示す。転写ではすべて小文字で統一したこと<sup>14)</sup>、4. の考察で用いるため、何カ所かに下線部を引いたこと、訳中のコンマは原文の:に、ピリオドは::にそれぞれ対応していることを断っておく。

#### 1 頁目

1:ova suvasdi širi<sup>15)</sup>, erte urida čay-tur sudu boyda činggis

オーム、吉祥、幸福 (あれかし) 。昔々 偉大なる聖チンギス

2:qayan-u ermeg čayaγči gegün inü ere qoyar jaγal unay-a törügšen

ハーンの エルメグ・チャガグチ馬 (長年不妊であった白い牝馬) が牡の二頭のジャガルを

産んだ

3:ajıyū, tere on-dur arban gegün-e telejü arγ-a kijü on-dur orıyulba

のであった。その年には10頭の牝馬の乳を飲んで何とか一年を乗り越えさせた

4:gele, ejen-degen day-a aqu-yin čay-dur unıyulju üriyen aquı

という。主人に二歳馬のときに乗ってもらい、三歳馬の

5:čay-tur quyaylaju, tere qoyar jaγal-i unıju, altai qan-i

ときに武具をつけて、その二頭のジャガルに乗って、アルタイ山の

6:arulan abalaju, köküi qan-i köbčilen abalaju, yeke jaγal-yi unıju

北斜面で狩りをし、フヒー山の木々の生い茂ったところで狩りをして、大ジャガルに乗って

7:altai qan-i abalan talbiba, arγali uγalja alaju, arγ-a ügei

アルタイ山で狩りをおこなった。野生の羊や山羊を殺し、

8:bardaju ireküi-dür arban tümen aba-yin kümün nigeken-ber ese

意気揚々とやってくるときに、10万の勢子の、一人として、

9:γaiqaba, bay-a jaγal-yi unıju köküi qan-i köbčilen talbıju,

驚かなかった。小ジャガルに乗って、フヒー山の木々の生い茂ったところで(馬を)放し

2 頁目

1:küilen köke činu-a-yi kidun alaba, ebesün-ü orui-bar örbeljegülün

灰青色の狼を皆殺しにした。草の先端がさがさと動いて

2:ireküi-dür kedün tümen aba-yin kümün nigeken-ber ese γaiqaba,

くるときに、数万の勢子の、一人として、驚かなかった。

3:kentei qan-i kerün abalan kedün tümen amitan-i güičeju yabuqui-dur ken čü

ヘンティ山をあらちちらと狩りをして数万の獣を追跡するときに、誰も

4:kümün kereglen ese γaiqaba, onun qatun-u oi tala-yi abalaju

(言葉を)惜しんで驚かされた。オノン河、ハトン河の森林地帯や平野部で狩りをし、

5:olan amitan-i güičeju oyir-a qola bügüde-dür adali bolbaču

多くの獣を追跡して、遠近すべてにおいて同じなのに

6:olan bügüde ese γaiqaba,

人々はみな驚かなかった。

7:tere degere uyaraqu sedgel törüju, day-a čay-tur minu dabtaysan

そのことに悲しみの心が生まれ、二歳馬のときに鍛えることになり、

8:bolji üriyen čay-tur minu erügsen boluji, kijalang čay-tur

三歳のときに(狩り等に参加するために)居並ぶようになり、四歳のときに

9:minu kinaysan bolji, soyulang čay-tur minu sorıysan bolji,

(良馬と)見定められることになり、五歳のときに(それが本当かどうか)試されるようになった、

3 頁目

1:kemen bay-a jaɣal anu yeke jaɣal-dayan kelebe, a abayai minu,

と、小ジャガルが大ジャガルに言った。「ああ、アバガイ（年上の人に呼びかける言葉）よ、

2:yabuy-a, altai qan-i abalaqui-dur arban tümen ulus ese medebe,

行きましょう。アルタイ山で狩りをするときには十万人の人々は何も知らなかった。

3:ai qayiran duran minu, köküi qan-i abalaqui-dur küi olan ulus

ああ、報われない願いよ、フヒー山で狩りをするときには群れなす多くの人々は

4: ese maytaba, köbçin qayiran sanayan minu, kentei qan-i abalaqui-dur

まったく誉めなかった。私の（誉められたいという）思いは何とことごとく報われないことか、  
ヘンティ山で狩りをするときには

5:kedün tümen ulus ese medegsen qayiran duran minu, ene bügüde-yi

数万の人々は何も知らなかった。私の（知ってほしいという）願いは何と報われないことか、  
この我々のすべてを

6:mani ülü medekü yaɣun bolba, a abayai minu yerü yabuy-a,

全く知らないとはどうなっているのか。ああ、アバガイよ、いつここから離れましょう。

7:man-u oduryan-u qoyin-a qan ejen minu nigen qoyar duradbasu

我々が出て行った後で、王たる主君が一言二言何か（我々の失踪について）ものを言うならば、

8:ner-e-yin aldar bisi buyu, a abayai mini, altai gegçi

名誉なことではないのか、ああ、アバガイよ。アルタイという

9:yaɣar-a agi šabay ebesü-tei genem, ayalan kürçü amurçu kebtey-e,

土地には色々なヨモギが生えていると言います。（そこまで）旅をして休息して横になりましょ  
う。

4 頁目

1:abayai minu,köküi qan gegçi yaɣar-a gübeg?<sup>16</sup> šabay ebesün-tei

アバガイよ、フヒー山という土地には色々なヨモギの草があると

2:genem, kögürüm čögerem naɣur-tai genem bile, ködelün kürçü kölberečü

言います。大小の湖沼があると言います。そこまで行って寝転んで

3:barıju<sup>17</sup> kebtey-e, abayai minu büri yabuy-a, kentei qan gegçi

休息しましょう。アバガイよ、ここから離れましょう。ヘンティ山という

4:yaɣar-a gem ügei tarɣu-tai genem, kei qui bolun kürçü kečeyilen?<sup>18</sup>

土地には悪くない肥沃な土地があると言います。竜巻となってそこに行き

5:kebtey-e, abayai minu üdter yabuy-a, onun qatun gegçi

横になりましょう。アバガイよ。すぐにここから離れましょう。オノン河、ハタン河という

6:yaɣar-a urtu sayiqan usu-tai genem bile, oi tala olan genem,

ところには、長々と続く素晴らしい水があると言います。森や平原がたくさんあると言います。

7:üdelen kürçü umtuγ-a?<sup>19)</sup> ügei kebteγ-e, abayai minu büri

半日で着いて横になりましょう。アバガイよ。

8:yabuy-a, a abayai minu, aq-a metü sanayçi alçul boru ni

ここから離れましょう。アバガイよ。兄のように思っているのはアルチョル・ボロ（馬の名前）

9:bui-j-a, köbegün metü sanayçi kögsin sirγ-a ni bui-j-a, küčün

であるよ。息子のように思っているのは彼の老いたシャルガ馬であるよ。力まかせに

5 頁目

1:sirügün ayasılayçi či bida qoyar bui-j-a, qatun-ıyan metü sanayçi

荒々しく好き勝手にするのは、お前と私の二頭であるよ、彼が自分の妃のように思っているのは

2:ni qara qula ni bui-j-a, qari dayisun metü sanayçi abayai či

ハラ・ホラ（馬）であるよ、外敵のように思っているのはアバガイ、お前と

3:bida qoyar ni bui-j-a, büri yabuy-a, küiten edür barin köndelen

私の二頭であるよ、ここから離れましょう。寒い日に捕まえて口のなかに横に

4:köke temür ömkügülün kürjen-tü<sup>20)</sup> toqum-i kölüsü-tei talbin küyiten

青鉄を咥えさせて鞍敷を汗がついたまま載せて、冷たい

5:temür ümküjü yakıju ay-a, abayai büri yabuy-a, qalayun edür

鉄を咥えてひどい目にあった。アバガイ、ここから離れましょう。暑い日に

6:barin qatatala uyan, qalayun naran-dur şaran, qayir sirui ömkügülün,

捕まえて干からびるほど繋いで、暑い太陽で焼かれ、小石や砂を口に含ませて

7:yakıju ay-a, abayai büri yabuy-a, bay-a jayal anu yeke jayal-

ひどい目にあった。アバガイ、ここから離れましょう。小ジャガルは大ジャガル

8:dayan yajar yajarlay-a geju kelebe.

に、他所の地に行きましょう、と言った。

9:abai boru duγurum minu yayu genem či, ejin geju ejen-dür adali

アバイ、褐色の若駿馬よ、何を言うのか、お前は。主人と言って、(今の) 主人と同じような

6 頁目

1:ejen oldaqu buyu, eke geju ermeg çayayçi ejei-dür adali

主人が見つかるだろうか。母と言って、エルメグ・チャガーグチ母と同じ

2:eke oldaqu buyu, yerü er-e kümün bayarlaqu geju manglai ülü

母は見つかるだろうか。そもそも、男というのは喜んで、額が

3:qayaraqı gele, ayta morin tarγulaju arasun ülü qayaraqı gele,

割れることはない。駿馬は肥っても、皮がひび割れることはない。

4:abai boru duγurum minu yayu genem či,

アバイ、褐色の若駿馬よ、何を言うのだ、お前は。

5:a abayai minu, sayin kümün-dür nöbür olan bisüü, sayin morin-dur

ああ、アバガイよ、良い人間には仲間がたくさんいるではないか。良い馬には

6:ejen olan bisüü, önür kümün-dür nöbür olan bisüü, önüčin

主人がたくさんいるではないか。大家族のいる人には友人がたくさんいるではないか。孤児の

7:kümün-dür noyan olan bisüü, sanay-a-tu kümün-dür seǰig olan bisüü,

人には領主がたくさんいるではないか。あれこれ考える人には疑いが多いではないか。

8:sayin morin-dur ʒajar oyir-a bisüü, abayai minu yabuy-a, abai

良い馬には土地に近いではないか。アバガイよ、ここから離れましょう。アバイ、

9:boru duʒurum minu, ey-e-tei kümün-dür nöbür olan gele, eyilügsen<sup>21)</sup>

褐色の若駿馬よ、愛想のいい人には友人がたくさんいると言います。逃げる

7 頁目

1: morin-dur ury-a olan gele, ey-e ügei kümün-dür nöbür östen olan gele,

馬には馬取棹が多いと言います。気難しい人には敵が多いと言います。

2:ečegsen morin-dur tasiyur olan gele, kümün-i geǰü köbčin bügüdeger

瘦せた馬には鞭が多いと言います。よそ者を(追い立てるのだ)、と試してみなで

3:üldem-j-e dayisun-i geǰü dayayar üldem-je-e, ʒerlig geǰü

追い立てるでしょうよ。敵を(追い立てるのだ)、と試みて、くまなく追い立てるでしょうよ。

野生(の馬)だ、と試みて、

4:jebe-yin üǰügür-e aḡayanam-j-a, abai boru duʒurum minu yaǰu

矢じりの先端で倒させるであろうよ。アバイ、褐色の若駿馬よ、何を

5:genem či, qadan-u ebesü qayda idey-e, butan-u ebesü boytai

言うのだ、お前は。岩のところの枯れ草を食もう。茂みの草を羊や山羊と

6:idey-e ösgen törügülegsen öle buyurul aqai yuǰan yaǰakıǰu martay-a

食もう。産み育ててくれた灰青色のアハイをどうやって忘れようと

7:genem či, ergün törügsen ermeg čaǰaǰı eǰei yuǰan yaǰukıǰı

言うのか、お前は。産み育ててくれたエルメグ・チャガーグチ母をどうやって

8: martay-a genem či, arban qoyar sara niruǰu-ban čiletele ergügsen,

忘れようと言うのか、お前は。十二ヶ月のあいだ背中がこるまで世話をした

9:angǰir šar-a uǰuray-ıyan köküǰülügsen, ačitu čayan sün-ıyen köküǰülügsen

野鴨色の黄色い初乳を吸わせてくれた、恩ある白乳を吸わせてくれた、

8 頁目

1: amaray eke yügen yaǰakıǰu martay-a genem či, ebei boru duʒurum

愛する母をどうやって忘れようと言うのだ、お前は。ああ、褐色の若駿馬

2: minu yaǰu genem či, omuy-ıyan daruy-a edüi-dür ayusǰin-ıyan

よ、何を言うのだ、お前は。不遜な気持ちを抑えなさい。もう胸を

3:çerdege<sup>22)</sup> edüi yayakinam bolbau çi minu, qayirlan qatayalaysan qan ejen minu,  
張りなさい。今さらどうしようと言うのだ、お前は。慈しんで鍛えてくれたハンたる主人、

4:qanilan ösügsen qayiran qani olan ede bügüde-yi yayakin orkin yajarl原因-a,  
一緒に育った愛しい多くの友人たちすべてをどうやって捨てて他所の地へ行こうと

5:genem çi, öd ügei ösgegen quriyabasusu tusa ügei gele,  
言うのか、お前は。よからぬ方に考えて役には立たないと言う。

6:bayiy-a kemen kelebe.  
やめなさい、と言った。

7:sayin kümün-dür nöktür olan gele, sayin morin-dur yajar oyir-a gele,  
良い人間には友人が多いと言います。良い馬には土地が近いと言います。

8:büri yabuy-a gejü bay-a jayal yayçayar yabusu kemen sanaju yeke  
行きましょう、と小ジャガルはひとりで行こうと思って、大

9:jayal-iyen orkiju yurban çabçiyur-un jüg-tür yabuba, aq-a minu  
ジャガルを捨ててゴルワン・チャブチョールの方角に行った。兄は

9 頁目

1:nekekü bolbau kemen sanaju türgeen jayur-a-ban altan uliyasun-u següder-tür  
後を追いかけてくるかなあとと思って途中の金色のポプラの木陰で

2:küliyejü bayin atala, dörben jüg-tür inü dörben öngge-yin  
待っていると、四方に四色の

3:sibayun nigen egessig-iyer dongyudba, bay-a jayal çikin-iyen  
鳥がひとつの音色でさえなかった。小ジャガルは自分の耳を

4:sartayiju segül-iyen ergüjü çangnan bayiba, altan yuryuldai sibayun  
そばだてて、自分の尻尾を上に入れて耳をすませている。金色の雉鳥が

5:altan uliyasun-u deger-e sayun jirgebe, aq-a degüü qoyar jayal salun  
金色のポプラのうえにとまってさえなかった。兄弟二頭のジャガルが別れて

6:yajarlaba gejü jirgebe, dakin ayalulan jirgebe, köküge neretü  
他所の地に行ったとさえなかった。もういちどメロディーをつけてさえなかった。郭公という名前の

7:sibayun dongyudba, kögerükei bay-a jayal urban yajarlaba gejü jirgebe,  
鳥がさえなかった。可愛そうな小ジャガルが裏切って他所の地に行ったとさえなかった。

8:bojšory-a subayun<sup>23)</sup> bosun jirgebe, boyda ejen-ü qayiran qoyar jayal salun  
雀鳥が起き上がってさえなかった。聖主の惜しい二頭のジャガルが別れて

9:yajarlaba gejü jirgebe, qayiryun-a sibayun qadan-u deger-e sayun  
他所の地に行ったとさえなかった。ハイルゴナ鳥が岩の上にとまって

10 頁目



1:jirgebe, qan ejen-ü qayiran qoyar jaŋal qaŋačan ʧaŋarlaba geǰü

さえずった。ハンたる主人の惜しい二頭のジャガルが別れて他所の地に行つたと

2:jirgebe, tere dörben öngge-yin sibayun-u dayun-i sonusuŋad

さえずった。その四色の鳥の声をきいて、

3:baŋ-a jaŋal tesül ügei yabuba, türgen türgen yabuqui-dur

小ジャガルは我慢できずにそこから離れた。さっささささと出ていくときに

4:tüngerčeg-ün činegen čilayun ködelgeǰü, arŋar arŋar yabuqui-dur

陰囊で作った袋ほどの石を蹴飛ばし、ゆっくりゆっくり歩いていくとき、

5:ayay-a-yin činegen čilayun ködelgeǰü, ʧurban čabčirur-i ʧorisu,

お椀ほどの石を蹴飛ばし、ゴルワン・チャブチョールを目指そう、

6:abayai minu nekekü bolbau kemen sanaǰu köke öndür-ün öbür-tür

アバガイよ、後から追いかけてくるかなあと、フフ・ウンドゥルの南で

7:ebesü tatalaǰu bayiba.

草を食んでいた。

8:yeke jaŋal anu örlüge naran-dur nekeǰü üd-ün naran-dur qamar-

大ジャガルは、朝、太陽が出るころ出発し、昼の太陽となるころ、鼻を

9:iyan qabčirur<sup>24)</sup> qara kölüsün-iyen asqarǰu ami-ban temečǰü güyičǰü

つまらせ、黒い汗を流し、息を切らして、追いついて

11 頁目

1:irebe, a boru duŋurum minu, kümün geǰü köbčin üldǰü,

きた。ああ、褐色の若駿馬よ、(人々は) 他人 (の馬) だ、と言って、あらゆるところを追い立て、

2:dayin geǰü dayayar kögeküi, ʧerlig geǰü jebe-yin üǰügür-e unayaqu

戦いだ、と言って、四方八方を追いかけて、野生 (の馬) だ、と言って、武器の先端で倒させる

3:bui-ǰ-a geǰü yeke jaŋal anu baŋ-a-dayan kelebe.

ことになるでしょう、と大ジャガルは小 (ジャガル) に言った。

4:qoyar jaŋal-un odurysan-u qoyin-a, nigen söni sudu boyda ejen

二頭のジャガルの出て行った後、ある夜、偉大なる聖主は

5:ǰegüdüñ ǰegüdülebe, erketü tngri ečige-eče ʧayay-a-tai ermeg

夢を見た。全能なる天の父より運命づけられたエルメグ・

6:čayayčı gegün-eče törügsen er-e qoyar jaŋal minu eyilün ʧaŋarlaba

チャガーグチ牝馬から産まれた牝の二頭のわしのジャガルが連れ立って他所の地に行つた、

7:genem be, boyda erketü tngri-eče ʧayay-a-tai buyan-tu čayayčı-a

というのか。聖なる全能の天より運命づけられた徳あるチャガーグチ

8:gegün-eče törügsen bayuralta ügei qayiran qoyar jaǵal minu

牝馬から産まれた何ら非のない惜しいわしの二頭のジャガルよ、

9:buruyulan jaǵarlaba genem, qan erketü tngri-eče jayay-a-tai qas

逃げて他所の地に行ったという。ハンたる全能の天より運命づけられた玉のごとき

12 頁目

1:čayayčï gegün-eče törügsen qayiran qoyar jaǵal minu ǵarun

チャガーグチ牝馬から産まれた惜しいわしの二頭のジャガルが出て行って

2:jaǵarlaba genem be, qajayar-ıyan egüldüreǵü<sup>25)</sup> yabuǵan yabunam geǵü jęgüdülebe

他所の地に行ったのか。(わしが) 馬ろくを…して歩いているという夢を見た、

3:bi ene jęgüdüñ minu ünem buyu, qudal buyu geǵü sibegčïñ-e

わしは、この夢は真なのか嘘偽りなのか、と小間使いに

4:ǵarlıy bolba, aduyun-dur oruǵı üje qudal bolbasu dayun ügei

言った。馬群に入って確かめよ、嘘偽りならば何も言わずに

5:ir-e, ünem bolbasu dörben qari yisün öngge-yin ulus-i minu

戻ってこい、真ならば、わしのドウルブン・ハリ部隊 [直訳で“四夷の敵”]、わしのユスン・ウング [直訳で“九色の人々”] 部隊を

6:erte čuyalayǵı ire kemeñ ǵarlıy bolba, boǵul bečïñ aduyun-dur

早急に招集して来い、と命じた。家臣のベチンは馬群に

7:orubasu öle buyurul aǵar-yı anu örbüljïñ sörbüljïñ eyin teyin

入って確かめると、ウル・ボーラル種馬がすこし動いてキョロキョロと

8:qaraǵı unǵıyulduǵı bayıqu aǵı, ermeg čayayčï gegün eke inü

あたりを眺めていながらいる、エルメグ・チャガーグチ牝馬母が

9:eyin teyin qaraǵı nidün-eče nilbusun ǵarayı bayıqu-yı üjebe,

キョロキョロとあたりを眺めて眼から涙を流しているのを見た。

13 頁目

1:boǵul bečïñ yarayı dörben qari yisün öngge-yin ulus-ıyan manayar

家臣のベチンは急いで、ドウルブン・ハリ部隊、ユスン・ウング部隊を早朝に

2:erte čuyalayǵı irebe, sudu boyda alčul boru morin-ıyan unuǵı,

招集してきた。偉大なる聖(主)はアルチョル・ボル馬に乗って、

3:altan quǵur abču, ǵel čayan nomuban dürüǵı, arǵasun

黄金のホール(弦楽器)を携えて、ゼル(馬つなぎの紐)のような白い弓に矢をつがえて、アルガサン・

4:quyurčï<sup>26)</sup>-yin kötüči kįǵü<sup>27)</sup>, alčïñ<sup>28)</sup> qarčayı yuǵan barıǵı eke-degen

ホールチ(人名)をお供につれて、…鷹を捕まえて、その母のところに

5:ergikü bolbau kemeñ sanaǵı ermeg čayayčï gegün-i kötülebe, tedüi

もどってくるのではないかと思って、エルメグ・チャガーグチ牝馬を連れてきた。すると

6: morilan yabuqui-dayan qayan noyan sudu boyda jarliy bolba, köküi

騎乗して出発するさいに、ハーン・ノヨンたる偉大なる聖(主)が命じた。フヒー

7: qan-u öbür-iyer čubuy-a, altai qan-i aru-bar abalay-a, odu-yin

山の南を連なって行け、アルタイ山の北で狩りをしよう、今いる

8: kümün urid yabu takilčuur-un kümün<sup>29)</sup> tasural ügei yabu, tere qoyar

人は前を進むように、左右の人々は途切れることなく進むように、あの二頭の

9: jaɣal-i minu ken güičegsen kümün büü qarbu, bariju üje,

わしのジャガルを何人が追いついたとしても決して弓で射らないように、捕獲してみるように、

14 頁目

1: bariysan kümün-dür dörben qosıyru mal-ıyan tegsiken qubiyacu

捕獲した者には四種の家畜を同じ数だけ分けるぞ、

2: bi kemen jarliy bolba.

わしは、と言った。

3: tedüi qoyar jaɣal qoyidu nekegsen aba-yin baray-a-yi qaraɣu üjeged,

それから、二頭のジャガルは後方に追跡してくる勢子の姿を見てとり、

4: yeke jaɣal anu bay-a jaɣal-dayan kelebe, dururum minu, bi ese

大ジャガルは小(ジャガル)に言った。若駿馬よ、私は

5: kelebeü, kümün-i geju köbcin üldekü bui-j-a, jerlig geju jebe-yin

言わなかったか。よそ者だ、と言って、あらゆるところを追い立てることになるぞと。野生だ、  
と言って、武器の

6: üjügür-e unayacu bui-j-a geju ese kelelü bi, ene bisiü gebe,

先端で倒させることになるぞ、と言ったではないか、私は。このとおりではないか、と言った。

7: bay-a jaɣal anu kelebe, a abayai minu, er-e kümün kelegesen

小ジャガルは言った。ああ、アバガイよ、男は自分の言った言葉を

8: üge-degen kürkü bisiü, ayta morin joriysan yaɣar-tayan kürkü

実行するものではないか、駿馬は目指した土地に達する

9: bisiü, yabuy-a, yayakiysan em-e metü oqurqan sanay-a-tai bile či,

ものではないか、行きましょう、なんと女のように考えが浅いのだ、お前は、

15 頁目

1: mani güičekü morin-eče bolqu, barayan-i mani qaraqı buyu gebe,

我々に追いつける馬どころか、我々の姿を垣間見ることができるのか、と言った。

2: altai qan-i aru oruqui-dur argali uyulja-yi alayulun bayuy-a,

アルタイ山に入るときに、野生の羊や山羊を殺して宿営しましょう、

3: köküi qan-i öberlen yabuqui-dur köke alay buyu-yi giskilen

フヒー山の南を行く時に、青斑の鹿を踏みつけて

4: ɣaruy-a,töb-ün kümün-dür toɣusun-ıyan üjegdey-e, büri ɣurban

進みましょう、中央の人には砂埃を見せてやりましょう、ゴルワン・

5: čabčıɣur-i joriy-a gebe,yeke ɣaɣal ɣiriken-ıyen ködelbe, baɣ-a

チャブチョールを目指しましょう、と言った。大ジャガルは心を動かせた、小

6:ɣaɣal šoɣsin ködelbe, baɣ-a ɣaɣal yeke ɣaɣal-dayan kelebe, abayai

ジャガルはだく足で動いた。小ジャガルは大ジャガルに言った。アバガイよ、

7:minu, aq-a metü sanaçı alçul boru morin yaɣakinam bolba geju

兄のように思っているアルチョル・ボル馬はどうするだろう、と

8:kelebe, tedüi degere bariɣsan ügei<sup>30</sup>, ɣurban čabčıɣur ɣaɣar-i

言った。すると…をつかまずに、ゴルワン・チャブチョールという土地を

9:jorin güibe, yeke ɣaɣal anu qoyar sanaɣan-i sanaɣu, qayıran

目指して疾駆した。大ジャガルは二つの思いを抱いて、惜しい

16 頁目

1:qan ejen minu, qayıran qan čayaqçin eke minu,geju nidün-eçe

ハンたる我が主人よ、惜しいハンたるチャガグチ母よ、と眼から

2:nilbusun ɣarɣaju, öru elige-ben ömürçü, ebüdüg-ıyen

涙を流して、みぞおちと肝臓を引き裂き、膝を

3:sögüdcü yabuba.

ついてから立ち去った。

4:sudu boyda ejen inü köke öndür degere ɣarçu barayın-i inü

偉大なる聖主はフフ・ウンドゥルの上に登って、その後ろ姿を

5:qaraɣu sinalun uyarabai, bolduy-un boru toluyai-dur ɣarçu qayın

眺めて物思いに沈んだ。ボルドギーン・ボル丘に登って、ハーンたる

6:ejen anu qayılaba, er-e-yin sayın-ıyar ejen ese boluluy-a bi,

主人は泣いた。男の中の男だということで主人になったわけではない、わしは。

7:erketü ngri eçige-yin ɣayaɣan-ıyar ejen boluluy-a bi, ermeg

全能の天なる父の運命で主君となったのだ、わしは。エルメグ

8:čayaɣçin gegün-eçe törügsen qayıran er-e qoyar ɣaɣal minu eyilün

チャガグチ牝馬から産まれた惜しい牡のわしの二頭のジャガルが連れ立って

9:ɣaɣarlabau çı, ebei minu, emegel-ıyen bariju yaɣakin qariy-a,

他所の土地に行った。ああ、鞍（だけ）をもってどうやって帰ろう。

17 頁目

1:ergiju irekü bolbau çı, ebei minu, bulıyan abçu ejen ese

お前は戻ってくるだろうか、ああ、奪い取って主君に

- 2:boluluγ-a bi, boyda tngri ečige-yin jāyayan-iyar ežen boluluγ-a bi,  
なったわけではないのだ、わしは。聖なる天の父の運命で主君となったのだ、わしは。
- 3:buyan-tu čayayčın gegün-eče törügsen qayıran er-e qoyar jāyal minu,  
徳あるチャガグチ牝馬から産まれた惜しい牡のわしの二頭のジャガルよ、
- 4:buruγulan γajarlabaу čı, ebei minu, qayıralan abču ežen ese  
逃げて他所の土地に行ってしまった、お前は。ああ、(天が)好きで主君に
- 5:boluluγ-a bi, qayan tngri ečige-yin qayır-a-bar ežen boluluγ-a bi,  
なったわけではない、わしは。ハーンたる天の父の愛で主君となったのだ、わしは。
- 6:qas čayayčın gegün-eče törügsen qayıran qoyar jāyal minu qayačan  
玉の如きチャガグチ牝馬から産まれた惜しいわしの二頭のジャガルが、別れて
- 7:γajarlabaу čı, ebei minu, qarıju irekü bolbaу čı, ebei minu,  
他所の地に行ったのか、お前は、ああ、戻ってくるだろうか、お前は、ああ、
- 8:učır-tai yeke urulduyan bolqu-du yaγun-ıyan qaγsaγay-a, učır-tu  
訳ありの大規模な競争が起こるとき、どの馬を訓練しよう、訳ありの
- 9:yeke aba-ban bolqu-du yaγun-ıyan unuy-a, qayıran qoyar jāyal minu,  
大巻狩となると、どの馬に乗ろう、惜しい二頭のわしのジャガルよ、
- 18 頁目
- 1:qari olan dayisun bolqu-du yaγun-ıyan quyaγlay-a, qayıran qoyar  
他所に多くの敵ができるとき、どの馬に武具をつけようか、惜しい二頭の
- 2:jāyal minu, kemegeд tedüi sudu boyda ežen ordu qarsi-dur-ıyan  
わしのジャガルよ、と言って、その後、偉大なる聖主は宮殿に
- 3:qarıju irebe.  
帰ってきた。
- 4:qoyar jāyal γurban čabčıγur-tur jorin kürčü dörben on nutuγlaba,  
二頭のジャガルはゴルワン・チャプチョールを目指して着いて、四年そこで過ごした。
- 5:baγ-a jāyal anu arasu-ban ijartala tarγulba, yeke jāyal anu  
小ジャガルはその皮がひび割れるほど太った。大ジャガルは、
- 6:jun jusaysan morin metü qatayırtuγad, ebül bolqui-dur qačar-tur inü  
夏を過ごした馬のように痩せこけて、冬になると、頬には
- 7:ayay-a-yin činegen mösün körübe, oi γasiγun-dur uyaraqu  
お椀ほどの氷が張った。悲しみにくれる
- 8:sedgil-i inü medegeд baγ-a jāyal anu asaγuba, a abayai minu,  
心を知って、小ジャガルが尋ねた。ああ、我がアバガイよ、
- 9:ebesün-i ereü-ber idedeg atala, usun-i uruγul-ıyar  
(同じように) 草を顎で食んでいるのに、水を唇で

19 頁目

1:uuγun atala, abayai arasu-tai sirbüsü-tei qataqu činu

(同じように) 飲んでいるのに、アバガイは皮と筋となって干からびているのは

2:yayun bui kemen asayuba, yeke jaγal kelebe, abai boru

どういことですか、と尋ねた。大ジャガルは言った。アバイ、褐色の

3:duγurum minu, yayun gejü ülü medenem či, qayiralan ösgegsen

若駿馬よ、なぜお前はわからないのだ、慈しんで育ててくれた

4: qan ežen-iyen, qanilan uçiraysan qayiran nökü-d-iyen, qayiran

ハンたる主人を、仲良く過ごした愛しい仲間たちを、慈しんで

5:törügsen eke yügen sanaqula, qayirtu jaγardur turγuban, qomuγultu

産んだ母を、思い出せば、愛する土地にひずめを、馬糞のある

6:jaγar-dur ereü-ben kürgejü yadaba, ösün törügsen eke yügen

土地に顎をつけることもしかねた。育ててくれた母を

7:sanaqula, ebesün-dür ereü-ben, usun-a uruγul-ıyan kürgejü

思い出すと、草に顎を、水に唇をつける

8:yadaba, abai boru duγurum minu, yayakıju ülü medenem či,

こともしかねた。アバイ、褐色の若駿馬よ、なぜわからないのだ、お前は、

9:abai minu gebe, tere çay-tur bay-a jaγal anu jöb qaraγu

我がアバイよ、と言った。その時に、小ジャガルは右を向いて

20 頁目

1:iniyen buruγu qaraγu uyılan yeke jaγal-dayan kelebe, a abayai minu,

微笑み、左を向いて泣いて、大ジャガルに言った。ああ、我がアバガイよ、

2:arasu sirbüsü-tei činu qatayan alaγu arasun-i činu emüsmü bi,

皮と筋だけになって痩せこけて、殺してお前の皮を着ようか、私は、

3:miqan-i činu idemü, ačitu abayai minu odu qariy-a kemen

お前の肉を食べようか、恩ある我がアバガイよ、さあ戻ろう、と

4:kelebe, yeke jaγal γurba dakin silgeged nigen qoyar ebesün tatalan

言った。大ジャガルは三度身震いをして、一、二本、草を食んで

5:bayıba, jirüken-iyen yeke jaγal ködelbe, bay-a jaγal ködelbe,

いた。大ジャガルは心を動かさせた。(それをみた) 小ジャガルも (心を) 動かさせた。

6:γurban sarayın jaγar γurban γurba qonuγ-dur küriy-e gebe, tere

三か月の行程を三日で行こう、と言った。その

7:qoyar jaγal-un kürçü irekü-yin söni düli-dür sudu boyda ežen inü

二頭のジャガルが戻ってきた夜、偉大なる聖主は

8:nigen jeγüdüin jeγüdülebe, erketü tngri eçige-eçe jayay-a-tai,

夢をみた。全能の天の父に運命づけられた

9:ermeg čaγaγčïn gegün-eče törügsen er-e qoyar jaγal minu eyilün

エルメグ・チャガグチ牝馬から産まれた牡のわしの二頭のジャガルが連れ立って

21 頁目

1:jaγarlaγu bile, ergijü irekü bolbau, emegel-iyen toquju bayinam geju

他所の地に行ってしまった。戻ってくるだろうか。その鞍をつけているという

2:jegüdülebe bi gebe, ene jegüdün minu ünün buyu qudal buyu, boγul bečïn-i

夢を見た、わしは、と言った。わしの夢が真か嘘偽りか、隸臣ベチンに

3:aduγun-dur oruju üje geju, qaγan ežen sudu boγda-yin

馬群のなかに入って確かめよ、と言った。ハーンたる主君、偉大なる聖君の

4:jarliγ-iyar aduγun-dur orubasu qoyar jaγal qariju iregsen

命で馬群に入ると、二頭のジャガルが帰ってきて

5:aγiγu, öle buyurul aγaγ-a anu üürsen bayiju, egüride

いる。灰青色の種馬が懐かしそうな声を出してないでおり、永久に

6:qaγaçaba geju bile bi, edüge edür irebeü ta kemen bayarlan bayiju

離れ離れになったと思ったぞ、わしは。ようやくこの日が来た、と喜んで

7:ebsiyen bayiba, ermeg čaγaγčïn gegün eke inü qoyar nidün-eče

あくびをしていた。エルメグ・チャガグチ牝母が両目から

8:nilbusun γaγaγu uyılan bayarlaγu bayiqu-yi üjebe, er-e qoyar

涙を流して泣いて喜んでいるのを見て、牡の二頭の

9:jaγal anu eke yügen ende tende-eče inü qaraγu bayiqu-yi üjebe,

ジャガルが母親をあちらこちらから見ているのを確かめた。

22 頁目

1:boγul bečïn üjged qoyar jaγal-i barin gebe, qoyar jaγal ese

隸臣ベチンは(そのように)見てとった後、二頭のジャガルを捕まえようとしたが、二頭は

2:bariydaba,qoyar jaγal ireju öle buyurul aγaγ-a-tai abču

捕まらなかった。二頭のジャガルはやってきて、灰青色の種馬も連れて

3:irebe geju qaγan ežen sudu boγda-dur ayiladqaba,sudu

来た、と言って、ハーンたる主君、偉大なる聖(主)に申し上げた。偉大なる

4:boγda qaγan ežen inü nigen qančui-ban türgen emüsün γarba,

聖主、ハーンたる主君は、一方の袖に手を通しながら出てきた。

5:a qoyar jaγal minu, mendü buyu ta gebe, baγ-a jaγal anu

ああ、二頭のジャガルよ。元気であるか、あなたは、と言った。小ジャガルは

6:on tusum-a-yin tedüi γaγar-a bayiju kelebe, γurban čabčiyur

弓を射て届く距離のところにて答えた。ゴルワン・チャブチョールを

7:joriysan qoyin-a qoyar jaγal-dur yaγu bui, γučin tümen ulus-i

目指したあと、二頭のジャガルに何がありましょう。三十万の人々を

8:ejelen saγuysan qaγan ejen minu qarın mendü buyu ta, altai qan-i

支配しているハーンたる主君よ、むしろあなたの方こそお元気ですか。アルタイ山を

9:joriysan aliy-a mayu qoyar jaγal-dur yaγu bile, arban tümen

目指した悪戯な二頭のジャガルに何がありましょう。十万の

23 頁目

1:ulus-i ejelen saγuysan qaγan ejen minu qarın mendü buyu či,

人々を支配しているハーンたる主君よ、あなたの方こそお元気ですか。

2:köküi qan-i jariysan kögerken aγali-tu qoyar jaγal-dur yaγu bile,

フヒー山を目指した悪戯な二頭のジャガルに何がありましょう。

3:küi olan ulus-i ejelen saγuysan qaγan ejen minu qarın mendü

群れなす人々を支配しているハーンたる主君よ、あなたこそお元気

4:buyu či gebe, sudu boyda jarliγ bolju, a qoyar jaγal minu

ですか、と言った。偉大なる聖主が（こう）答えた。ああ、わしの二頭のジャガルよ、

5:ta yaγun-u tula yambar uγir-tai γajarlaba ta geγü asaγuba, yeke

あなたは何のため、どのような理由で他所に行ったのか、あなたは、と尋ねた。大

6:jaγal daγun ese γarba, baγ-a anu sudu boyda ejen-dür-

ジャガルは声が出なかった。小（ジャガル）は偉大なる聖主に

7:iyen kelebe, a qaγan ejen minu,qoyar jaγal-i qayiralaqu

言った。ああ、ハーンたる主君よ、二頭のジャガルを大切に

8:bolusai daγ-a čaγ-tur minu dabtaqu bile ta, üriy-e čaγ-tu minu

くださいますように。二歳馬のときに鍛えるものです、あなたは。三歳のときに

9:erin sanaqu bile ta, kiγalang čaγ-tur minu kinan unuqu bile ta,

探し求めるものです、あなたは。四歳のときに（良馬と）見定め乗るものです。

24 頁目

1:soyulang čaγ-tur minu sorin unuqu bile ta, altai qan-i

五歳のときに（それが本当かどうか）試すものです。アルタイ山で

2:abalaqui čaγ-tur aγali uyulja-yi guičen alaba, arban tümen

狩りをするときに野生の山羊に追いついて殺した（のに）、十万の

③:aba-yin kümün ülü medebe, köküi qan-i köbçilen abalaqui čaγ-tu

勢子は何も知らなかった。フヒー山の木々の生い茂るところで狩りをしたときに

④:küilen köke činu-a-yi güičin alaba, kedün tümen kümün činu ülü

灰青色の狼に追いついて殺した（のに）、数万の人々は何も

⑤:medebe, kentei qan-i kertin abalaqui čaγ-tur kedün tümen kümün



知らなかった。ヘンティ山で狩りをするときには数万の人は

6:činu ese maytaba, onun qatun-u oi tala-yi abalaqui-dur

全く誉めなかった。オノン河、ハトン河の森林や平原で狩りをするときには

7:oyir-a qola adali bolbaču olan tümen činu ese maytaba, teyimü-yin

遠くも近くも同じようにしているのに、何万人もの人がまったく誉めなかった。そのような

8:tulada yaǰarlaba bida, ayımay sibaγun<sup>31)</sup> dongyudula, kümün-i köbegün

わけで、他所の地へ行きました、我々は。群がる鳥がさえずりました。人の子は

9:yaǰar-tayan saγuba, küllüg-ün köbegün yaǰar-ıyan sanaba, qaγan

産まれた場所に住むものだ、駿馬の息子は故郷を思うものだ(と)。ハーン

25 頁目

1:eǰen sudu boyda minu gebe, tengkeküi-dür yeke jaγal kelebe,

たる主君、偉大なる聖主よ、と言った。そのときに大ジャガルが言った。

2:boru durγurum bayıγ-a gebe, qaγan eǰen minu namayi unu gebe,

褐色の若駿馬よ、やめなさい、と言った。ハーンたる主君よ、私に乗りなさい、と言った。

3:tere üge-yi jöbsiyejü bay-a jaγal anu naiman jil qurlaba, naiman jil

その言葉を是として、小ジャガルは八年間休ませた。八年間

4:qaγsaγaba, namur-un terigün saradu aba-dur morday-a gejü, aba

訓練をさせた。秋の最初の月に、狩りに出発しよう、と言って、勢子

5:mordan altai qan-i arulan abalaba,arban tümen kümün maytan yaγıqaba,

も出発して、アルタイ山の北の斜面で狩りをした。十万の人が誉めて驚いた。

6:köküi qan-i köbcilen abalaba kedün olan amitan-i güiçin alaba, keleküi

フヒー山の木々の生い茂るところで狩りをした。数多くの獣に追いつき殺した、という(ときに)

7:aba-yin kümün yaγıqan maytaba,kentei qan-i kerun abalaba, kedün olan

狩りの人々は驚き誉めた。ヘンティ山のあちらこちらで狩りをした。数多くの

8:amitan-i güiçen alaba, keleküi aba-yin kümün yaγıqan maytaba,

獣に追いつき殺した、という(ときに) 勢子の人々は驚き誉めた。

9:onun qatun mören-ü oi tala-yi abalaba, olan tümen amitan-i

オノン河、ハトン河の森林や平原で狩りをした。何万という獣を

26 頁目

1:kidun alaba, kemjıy-e ügei yaγıqan maytaba, qoyar jaγad jil<sup>32)</sup>

殺し尽くした。限りなく驚き誉めた。・・・・・・

2:sanay-a sedgil inü amurqan jıryaba.

心は穏やかになった。

3:sudu boyda činggis qaγan bay-a jaγal-dur gkib tataju seterlebe,

偉大なる聖主、チンギス・ハーンは小ジャガルに絹布を結わえて聖別した

4: gele, gkib tataqu-yin yosun bay-a jaγal-eče bolba gele, ejen

という。絹布を結わえる儀礼は小ジャガルから始まったという。主人たる

5: boyda činggis qaγan-u er-e qoyar jaγal-un tuγuji tegüshe.,

聖チンギス・ハーンの牡の二頭のジャガルの物語は終わった。

27 頁目

1: mongyul ulus-un sudur bičig-ün küriyeleng-eče

モンゴル国の史籍研究所から

2: olan-a ergügdegsen-ü arban qoyar on-dur,

共戴十二年に

3: ün-e 20 mönggü, 定価 20 ムング

4: nige mingyan tabun jaγun qubi-yi keblegülün yaγabai.

一千五百部を印刷出版した。

5: neyislel küriyen-deki orus mongyul-un keblel-un yaγar-a darumallabai.

首都フレーにおけるロシア・モンゴル出版社から印刷された。

#### 4. 考察

考察の手始めとして、出奔した二頭の駿馬がチンギスのもとに戻ってきたさいに、3. で紹介したテキストにおいては、チンギスは二頭の駿馬に「どのような理由で他所に行ったのか」(23 頁目 5 行目)と尋ねるのに対して、楊海英の紹介したオルドス地方の2つの写本 OO 本と QB 本ではそのような質問はなく、「誰が乗ったのか」と訊いていることに注目しておきたい<sup>33)</sup>。とはいえ、一見、この質問の意図には大差がないように思われるかもしれない。なぜなら、前者においては馬がチンギス以外の誰の支配下に入ったのかという、最終的に馬への支配を問題にしていると理解しうるし、後者においても、「誰が馬に乗ったか」というのは、その馬への支配をやはり問題にしていると解釈しうるからである。

しかし、問いかげそのものに大差はなくても、この問いかげへの馬の応答が OO 本や QB 本とは異なっていることは注目に値すると思われる。むろん、本テキストでも、乗り方自体に対する不満も同頁の 23 頁目 7 行目から 24 頁目の 1 行目まで出現しているのであるが、それ以上に注意を引くのが、24 頁目の 1 行目から始まる、以前の狩りにおける二頭の駿馬に対する評価の低さについての二頭の発する不満の言葉である。一方、チンギスへの応答に対しては、OO 本と QB 本と大差はなく<sup>34)</sup>、乗り方や評価についての不満ではなく、チンギスのもとを去ってから誰も彼らに乗った者はないことをチンギスに説明するものとなっている。

このような観点で、再度、本テキストを観察すると、二頭の駿馬の活躍を *ese yaγiqaba* (驚かなかった) や *ese maytaba* (賞めなかつた) という表現が頻出している点を指摘しておきたい。このような表現の類似表現としては、*ülü medekü* (知らない) や *ülü medebe* (知らなかつた) が

あり、テキストにおいて下線を引いた箇所はすべてそれらに該当する。具体的に頻出する度合いを記せば、多いものから、*ese γayiqaba*(驚かなかった)は計4回(1頁目8-9行目、2頁目2行目、同頁4行目、同頁6行目)、*ese maytaba*(賞めなかった)は計3回(3頁目4行目、24頁目6行目、同頁7行目)、*üli medebe*(知らなかった)は計2回(24頁目3行目、同頁4-5行目)、*ese medebe*(知らなかった)は計1回(3頁目2行目)、*üli medekü*(知らない)は計1回(3頁目6行目)、*ese medegsen*(知らなかった)は計1回(3頁目5行目)となる。

一方、チンギスが二頭の馬を八年間休ませた後で行った狩りにおいて二頭が人々に賞賛されたことは、結末部の叙述で示されている。すなわち、25頁目4行目から26頁目1行目までのあいだに、*γayiqan maytaba*(驚いて賞めた)が3回(25頁目7行目、同頁8行目、26頁目1行目)、*maytan γayiqaba*(賞めて驚いた)が1回(25頁目5行目)それぞれ現れている。否定形であれ肯定形であれ、これらの表現は二頭の駿馬についての“評価”をめぐるものである点で共通している。

これに対して、OO本やQB本では、出奔前の二頭の駿馬の会話に着目すると、チンギスへの不満は、“乗り方”にあり、“評価”とは無関係であることは明らかである<sup>35)</sup>。ここで、“乗り方”というのは、馬への“敬意”を問題としていると言い換えてもいいであろう。つまり、本テキストにおいては“評価”も“敬意”も問題としているのであるが、“評価”のほうは、オールドス地方で発見されたOO本やQB本には見られない趣向なのである<sup>36)</sup>。

3. で紹介したテキストにおいて見られる“評価”と“敬意”のうちどちらを重く受け取るべきかについては、それ自体においてよりも、OO本やQB本といったオールドスの写本との対比においてみなければならないように思われる。この点からみて、やはり3. のテキストは、“評価”のほうの存在を重視する必要がある。すなわち、“共通部分における差異”とは、二頭の馬に対する“評価”の有無にあるといえる。

## 5. おわりに—結論に代えて—

「はじめに」でも述べたように、従来の研究ですでに知られてきたことであるが、当該写本には2つのタイプがあり、そのひとつは、チンギス・ハーンの二頭の駿馬がチンギスのもとから逃走し、再度もどってくるまでの物語だけをもつタイプと、さらに、馬の鑑定ができる少年が捕虜の身分から脱走して、再度とらえられ、少年の乗った馬だけは漢土に逃れたという新たな物語が付加されているタイプの2つである。前者を“ハルハ本”、後者を“オールドス本”と命名している研究者もいるが、じつは、両タイプに共通している物語には差異がある。この差異について指摘は既になされてはいるが、その差異は、付加された物語をもつものとそうでないものとの間の差異ほどには認識されてこなかったといえる。本考察はこの盲点をつき、両タイプに共通している物語の差異を再認識させるものである。

具体的な手続きとしては、ダムディンスレンの第1テキストの主な典拠となった共載十二年刊行の鉛版印刷本をローマ字転写および日本語翻訳を示した上で、当該テキストにおいては、

ダムディンスレンの第2テキストに近いQB本、あるいは第2テキストとは異なる系統の写本に基づいたと考えられるOO本との対比においては見られない、ese yayiqaba（驚かなかつた）やese maytaba（賞めなかつた）など、二頭の馬に対する“評価”に関わる表現が頻出している点を指摘した。当該テキストには、OO本やQB本においても見られる“乗り方”すなわち“敬意”を問題にする叙述は見られるものの、OO本やQB本において明らかに欠如している“評価”の問題こそ、当該テキストの大きな特徴であると論じた。

従来、2つのタイプの“共通する部分における差異”が軽視されてきた背景には、“敬意”については両タイプに共通して見られるものであったからであろうと推測される。しかし、本論で具体的に確認できるように、“評価”の問題が当該テキストに明確に刻印されているのである。このことは、物語の叙述者のスタンスあるいは作品の意図と深く関連していることが予想される。それゆえ、この問題については改めて論じることにした。

## 注釈

- 1) A.Mostaert, C.I.C.M., *Textes Oraux Ordos*, Monumenta Cerica Monograph Series 1, Cura Universitatis Catholicae Pekini Editi, En Vente Aux Editions Henri Vetch Peip'ing, 1937 (Reprint version, p.228., 2010).
- 2) 楊海英「チンギス・ハーンの二頭の駿馬について—写本と口頭伝承の比較を中心に—」『国立民族学博物館研究報告』24巻3号, 1999年, 485-632頁。
- 3) 本稿を校正中にオルドス出身のモンゴル研究者 S.ホルツバートル氏よりオルドスの1写本を掲載した資料の提供を受けた。この場を借りて謝意を記しておきたい。しかし残念ながら当該写本の考察は本稿には反映させることはできなかった。その資料は、Minggad Kesigduren's Manuscripts about the Ordus-Mongolian Culture, by Dr. Solongod Hurcabaatur, Minggad Urangoo, Quaestiones Mongolorum Disputatae, Monograph series No.2, International Association for the Study of Mongolian Cultures, Tokyo, 2011, pp.353-393. このほか、モンゴル国でもひとつの写本の紹介がなされたという情報を得ているが、筆者はそれをまだ入手していない。
- 4) 少なくとも2011年8月時点においてモンゴル国立図書館には横長の經典形式の手書き写本が2つ存在していた。1つは地方から贈呈されて所蔵の手続きに入ろうとしていたため当該図書館の目録に未記載のものであった。それゆえ、モンゴル国には公にはなっていない、個人で所蔵されている写本が若干存在している可能性がある。なお、手書き写本については、Ch.ナラントヤ、D.エンフトンガラグ[編集], 橋誠[編], 『モンゴル国立図書館所蔵 モンゴル語マニユクリプト目録』早稲田大学モンゴル研究所紀要別冊 早稲田大学モンゴル研究所 2011年の62頁に一件の記載がある。木版や鉛版も含めた目録には、Батмөнхийн Тунгалаг, Цэрэнгийн Дуламсүрэн, Монгол гар бичмэл барын номын ном зүй, Монгол Улсын Үндэсний Номын Сан, Улаанбаатар, 2011, p.323.
- 5) Č.Kešigtoɣtaqu, 《Činggis-ün qoyar er-e jaɣal-un tuɣuɣi》-yin üjel sanayan-u čiglel (『チンギスの二頭の牡のジャガル物語』の思想的方向), Mongɣul-un erten-ü utq-a jokiyaɣal-un sudulul (『モンゴル古典文学研究』), Öbür mongɣul-un soyul-un keblel-ün qoriy-a(内蒙古文化出版社), 1988年, 282-283頁。
- 6) 日本語に翻訳されているものは、後半の物語が付加されていない前半タイプであり、オルドス地域から得られたものである。これまで紹介されてきた、内蒙古で発見された写本は、後半の物語がついているものが多いので、この版は特異に見えるが、オルドス地域にも前半だけのものがあつたことを示している。A.モスタールト著・磯野富士子訳『オルドス口碑集—モンゴルの民間伝承』東洋文庫 平凡社 1966年 3-17頁。この邦訳は、前掲のA.Mostaert, 1937年からのものである。
- 7) これはErdenitoɣtaqu, 《Qoyar jaɣal-un tuɣuɣi》-yin tuqai, Mongɣul teüke kele bičig 5.p.46の下段4行目から12行目までの指摘を指している。
- 8) これまでのところ最もまとまったものとしては、内蒙古で出版されたBuu Altan nayirɣulba(宝阿拉塔編), 《Činggis-ün qoyar jaɣal-un tuɣuɣi》-yin sudulul (『チンギスの二頭の駿馬物語の研究』), Mongɣul ündüsüten-ü erten-ü uran jokiyaɣal-un sudulul-un čubural bičig.(モンゴル民族の古典文学研究叢書), Öbür mongɣul-un arad-un keblel-ün qoriy-a(内蒙古人民出版社), 1992年であろう。ここには当該年次までに雑誌や新聞に発表された諸論文が掲載されている。
- 9) 前掲論文, 楊, 1999年, 491頁参照。なお、ダムディンスレンの2つのテキストが掲載されているのは、Damdinsüring,

Mongyul uran jokiyal-un degeji jayun bilig orusbai, Instituti Linguae et Literarum Comiteti Scientiarum et Educations Altae reipublicae Populi Mongoli, XIV, Ulaanbaatar, 1959, pp.60-73.

- 10) 前掲論文, Damdinsüring, 1959, p.68 参照。
- 11) 前掲論文, Damdinsüring, 1959, p.73 参照。エルデネトクトホの論文は前掲論文 Erdenitoytaqu, pp.46-58.を参照。
- 12) 本論で紹介する鉛版印刷本はモンゴル国立図書館に保管されており、番号は 12086/97 である。当該図書館に保管されている 12081/97 から 12085/97 の番号のついた 5 冊の印刷本はこの 12086/97 と全く同じものである。このほか、当該図書館には、別の鉛版印刷本が 2 種類確認された。ひとつは 12091/97、もうひとつは 12089/97 と 12090/97 である (12089/97 と 12090/97 は全く同じ印刷本である)。
- 13) 前掲書, 楊, 1999, pp.568-582 を参照。
- 14) なお、ウイグル式蒙古文字には日本語や漢語と同様に大文字・小文字の区別がないことを指摘しておきたい。
- 15) サンスクリット語の om svasti śri をモンゴル語にした表現。山口周子氏のご教示による。
- 16) gübeg は不明。
- 17) barju は「つかんで」の意だが、何をつかんだのか、あるいは熟語の一部なのか不明。
- 18) kečeyilen は不明。
- 19) umtuy-a は不明。
- 20) küjen-tü は「鋤のついた」の意だが、鋤を置いた鞍というのは文意不明なので、訳出していない。
- 21) ここでは文字通り転写したが、最初の e は n に点がないだけかもしれない。すなわち niilegsen かもしれない。とはいえ、このテキストでは常にこの語の場合の最初の e には点が付いていないので、niilegsen としなかった。
- 22) čerdege は「突き出さない」の意であるが、直訳すると「肺臓を突き出す」。ここでは“堂々とした態度を取る”という意で「胸を張る」と解した。
- 23) これは sibayun の誤写か。
- 24) qamar-ıyan qabčiju は直訳すると「鼻を圧迫し」となる。
- 25) egüldüreju は不明。
- 26) 原文では qyruurci と見えるが、qyruurci の誤植と判断した。
- 27) kötüci kijü の誤植ではないかと考えられるので、原文の köteci kijü と読める箇所をこのように転写した。
- 28) alčin は不明
- 29) takilcuur-un kümün は直訳すると「腓骨の人々」。
- 30) degere bariysan ügei は直訳すると「上を?つかまずに」であるが、全体として不明。
- 31) 原文では、sibayun ではなく、sibaqun となっている。
- 32) Damdinsüring のテキストでは、前の 2 語と合わせて、qoyar jayal-un (二頭のジャガルの) と読んでいるが、このテキストでは、qoyar jayad jil と読める。もし jayad ではなく jayun の誤植であるとするならば、「二百年間」の意となる。
- 33) この点については、1937 年のモスタールトがオルドスより書き取ったテキストにおいても指摘しうることである。A.Mostaert, reprint version, pp.162-167.
- 34) 楊前掲論文, OO 本では 538 頁の 13-a の 1 行目から 6 行目あたりまでが対応し、QB 本では 561 頁の 21 頁の 5 行目から 12 行目あたりまでが対応する。なお、モスタールトのオルドスから書き取った前掲テキストにも同様な対応部がある。
- 35) 楊前掲論文, OO 本では、526 頁の 1-b の 4 行目から 527 頁の 2-1 の 5 行目、QB 本では、547 頁の 3 頁の 1 行目から 548 頁の 10 行目までに対応する部分を参照。
- 36) モスタールトのオルドスから書き取った前掲テキストにも言えることである。